

**コロナ禍の今、葬儀に参列できない時のために  
棺に入れるお手紙つつみ【おくりふみ】本格的発売！  
秋のお彼岸を前に2021年9月21日、京和志BASEサイトにて**

一般庶民が棺で火葬されるようになった明治時代から、故人に手紙を書いて棺に入れる習わしがありました。

「言霊」と言って、言葉には不思議な力が宿り、それを故人へ直筆の手紙でしたためることで、想いが伝わると考えられています。

現代では、少人数での家族葬や、火葬場への直葬、喪主さまの香典の辞退などで、故人へのお悔やみが希薄になり、葬儀に参列できないことや、コロナ禍で葬儀さえ無くなることが多くなり、故人に気持ちを伝えることが難しくなっております。

そこで京和志（京都府向日市/代表 山谷桂子）で新たに、【おくりふみ】を開発し、京都の伝統的な手染め友禅和紙を使い、9月21日から発売することとなりました。

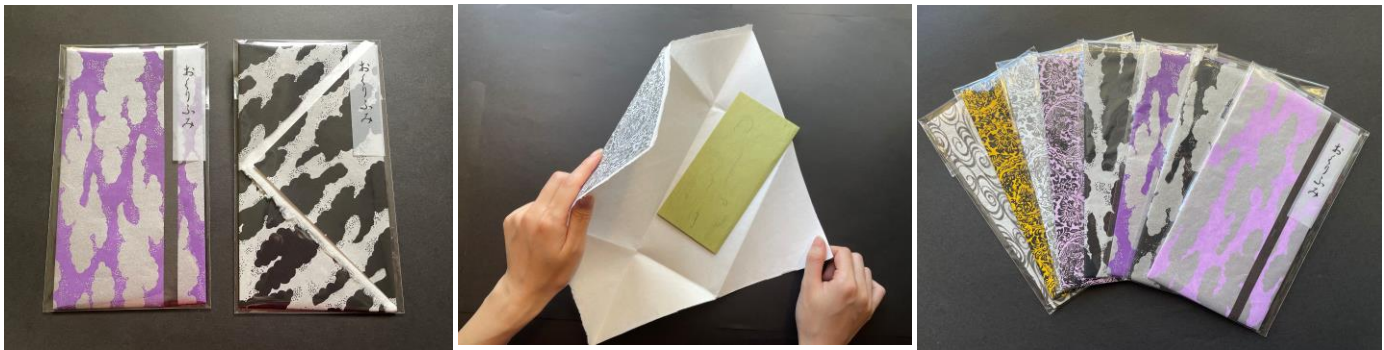
令和の、新しい弔いの文化をつくるべく、末永く使って頂ける商品になるよう進めて行く意気込みです。

※【おくりふみ】商標登録取得済み

**《商品概要》**

京都八幡の小さな工房で熟練した女性職人が一枚ずつ手染めした友禅和紙を使って、折形（おりがた）という礼の心を形に表した日本伝統の技法を用いて、京和志がひとつずつ心を込めて手づくりしています。

雲・唐草・流水の3柄8色2パターン16商品（サイズ11cm×20cm）1750円（税込み送料無料）

**《お問い合わせ》京和志 きょうわし**

〒617-0006

京都府向日市上植野町地田1-29

個人事業主 山谷桂子（担当：やまたに）

(075) 935-5676 (TEL &amp; FAX)

090-1484-9921 (HP)

Mail: okurifumi@gmail.com

京和志HP

<http://kyowasi.com>

京和志BASE SHOP

<http://kyowasi.base.shop>

## 友禅和紙とは

### 《歴史》

着物の友禅染めのような柄を特徴とした和紙。友禅染めとは、扇絵師の宮崎友禅斎（江戸時代）が考案した、繊細さと鮮やかさを兼ね備えた絵画風の模様。

### 《現状》

京都で友禅和紙を手染めしている工場は全盛期から激減し、現在は5～6社となり、さらにコロナ禍で空前の灯となっています。海外からの観光客が無くなり、若者の工芸離れなどでとても苦しい状況。また職人の高齢化や和紙原材料を作る農家が減ったり、工場の老朽化などの課題が山積みです。

## 製造工程の複雑困難

京和志の友禅和紙は、京都八幡の岩清水八幡宮ふもとの小さな工房で、熟練した女性職人が一枚ずつ丁寧に手染めしています。色調合は顔料の微妙な違いで異なった色となり合わせるのが難しいです。染め工程では、型を用いて版画の要領で色かず分だけ染めては乾かし、を繰り返して重ねていきます。ヘラの角度や力加減、工場の温度・湿度、季節や天候にとっても左右され染め状態が変化し、大変難しい作業となります。1色200枚に1時間掛かり、一日で多くとも400枚しか手染めできない貴重な和紙となっています。（※次頁に詳細）

また、折形（おりがた）という、礼の心を形に表した日本伝統の技法を用いて、京和志が1枚ずつ心を込めて手折りしています。和紙の厚みや、2枚重ねで折っているため、ズレやシワが出ることがあります。細心の注意を払いながら、角度や寸法を計ったり、ヘラや竹串を使ったり、方眼で確認しながら製造しています。すべて手づくりのため、一日に作れる数は少量です。



## 【おくりふみ】とは

### 大切な人へ想いを贈る特別なお手紙つつみ【おくりふみ】

亡くなった人にあなたが伝えたい想いは何ですか？

感謝の気持ち、たくさんの思い出、残された人の想い、冥福の祈り。さまざまな想いがあると思います。そんなあなたの大切な想いを棺に入れて伝えるのが【おくりふみ】です。お心付けや寺社仏閣へお納めする金封としてや、高級なお手紙つつみ、お墓や仏壇にお供えする封筒としてもお使い頂けます。



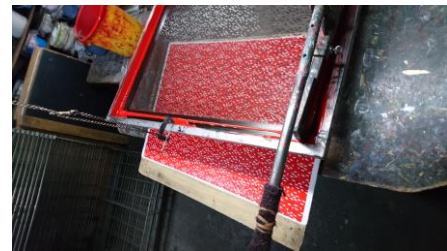
# 友禅和紙の製造工程



- ① 作業台の白和紙の上に、シルクスクリーン型（98×67cm）の「赤色型」を乗せ、赤染料をふち（左）に入れ、



- ② スキージーという大型ヘラで左→右へと色をしごき（動かし）、染めます。



- ③ 染料が版画の要領で穴の開いている部分にだけ下の和紙に落ち、染まります。染まった和紙を網台で並べて風を当て乾かします。



- ④ 次に「ピンク型」を台に載せ、赤に染まった和紙の柄の上に、型合わせを狂い無くキッチリ合わせて、ピンク染料を入れ、画面をしごきます。



- ⑤ 赤色の上にピンク色が乗り、2色染まりました。また網台に並べて乗せて乾かします。



- ⑥ このようにして、色かず分だけ、染めを重ねて繰り返していきます。この柄には、あと緑色、白色、金色が乗り、糸目と呼ばれる金色のくくりが最後に仕上げで染められます。



- ⑦ 工房では最高10色の友禅和紙柄を染めており、型合わせや染めには大変難しい技術が必要です。



## 企画の狙い

友禅和紙は大変手間のかかる上に薄利なため、製造工  
房が減り、原材料や後継者不足で空前の灯です。

京和志はそこで、友禅和紙の需要を増やすため、過去無かったもの、人に喜  
ばれるものをと商品開発に取り組みました。金封に多く友禅和紙が使われて  
いることから、高級感のある美しい香典袋を作っては？と考えました。しか  
し、近年は香典を辞退されることが多くなり、家族葬や直葬で参列も少なく  
なり、香典も減る一方です。

そこで、京和志自身の父の葬儀で、棺に副葬品を入れたことがとても心に沁  
みことから「棺に入れるお手紙つつみ」はどうか、と発想の転換をして

【おくりふみ】の発案をいたしました。

コロナ禍で葬儀が減り、故人に想いを伝えることが希薄になった今、

【おくりふみ】で大切な気持ちを伝えられます！

お悔やみのお手紙包みとしてだけでなく、お心付けや寺社への金封として、  
また、お仏壇やお墓へのお手紙のお供え、高級な封筒やお札入れとしてもご  
自由な用途にお使い頂けます。

**大切な人へ特別な想いを贈る【おくりふみ】で  
どうぞあなたさまの想いを直筆でお伝えください。  
きっとお相手さまの心に響くお手紙になります。  
この感動をお客さまに広く知って頂きたい思いで  
京和志は心を込めて手づくりしています**

### 《お知らせ》

【おくりふみ】は送付にお  
日にちが掛かるため、急な  
葬儀に備えて、前もってご  
購入のうえお家に置いてお  
かれることをお勧めいたし  
ます。

### 開発者

京和志 きょうわし / 山谷桂子 やまたにけいこ

1987年京都芸術短期大学 造形芸術学科卒業。

結婚・出産・子育てを経て「途絶えてゆく京都伝統の  
手仕事を受け継ぐひとりになりたい」と、手染め友禅  
和紙職人を志す。

縮小傾向にある業界を新たな発想で立て直すべく修行  
に励む。

2021年2月、9年の修行を経て、コロナ禍に個人事業主  
として工房を独立。

同工房の友禅和紙を使い、過去なかったもの、人に喜  
ばれるものを信念に商品開発に取り組み、  
特別な人へ大切な想いを贈るお手紙つつみ【おくりふ  
み】を発売。



京和志HP



京和志 BASEショップ

